

被災地派遣レポート<第56回>

建設局北多摩南部建設事務所 袖川 巧さん

1 はじめに

私は、平成24年7月1日から平成24年9月28日までの3ヶ月間、宮城県気仙沼市の気仙沼土木事務所道路管理班に派遣されました。派遣に際し、今まで訪れたことのない土地であり、知らない土地での生活・仕事を考えると不安でしたが、周りの方々の後押しもあり、派遣を決意しました。

2 仕事内容

私が派遣された気仙沼土木事務所は宮城県の北東部に位置し、気仙沼市と南三陸町の2つの市町を管轄しています。その中でも私が所属していた道路管理班は県道及び一部国道の道路・橋梁の維持管理を行っている部署であり、自分を含めて6名（県職員5名+東京都1名）という少ない人員で日々の業務をこなしていました。

私の担当は、通常の路面補修工事及び東日本大震災で被害を受けた道路や橋梁の応急的な補修工事の監督業務であり、その他にも住民の方からの道路・橋梁についての電話相談の対応も行っていました。道路については地震・津波により道路の一部が崩れたり、海に面した道路のガードレールがなくなったりと至急対策が必要な箇所を優先して補修し、橋梁では津波により海水を被った橋の洗浄（塩分除去）や再塗装等の工事を行いました。また、東日本大震災以降、住民の方から住宅と近接している道路や橋梁、法面への相談が増えたため、現地まで足を運び、住民の方と直接顔を合わせながら話を聞く等、毎日現場に出て対応していました。





○津波による引き波によって壊れた道路



○津波により流された港町（南三陸町）

3 日常生活

気仙沼での生活については、東京都の職員は全員、県の独身寮での居住でした。寮は風呂・トイレ共同で寮母さんが朝晩のご飯を用意してくれます。また、寮の周辺には大型ショッピングセンターや牛丼チェーン店まであり、生活環境は充実していました。

4 終わりに

最初、派遣期間が3ヶ月と聞いて、「長い」という印象でしたが、実際に仕事に入るとあっという間に時間が過ぎてしまい、自分が貢献できた期間はわずかであったことを痛感しました。派遣先では東京都の他に、北海道、千葉県、三重県、徳島県、高知県、奈良県等、色々な地域の県職員の方も派遣で来ており、多くの方と交流を持てたことや、仕事では県の職員の方にサポートしていただいて、支援に行ったはずが逆に多くのことを経験させていただきました。

派遣期間は終わってしまいましたが、東京からも東北のことを見守りつつ、少しでも力になれるよう自分が体験してきたことを発信していきたいと思います。



○うち上げられた漁船（気仙沼市）



○遠方から臨む気仙沼市（気仙沼市）